卓　　話

平成 22 年 6 月 22 日

『 第３０回全国豊かな海づくり大会を振り返って 』

全国豊かな海づくり大会推進事務局
推進担当　技術主査　福井　樹様

全国豊かな海づくり大会とは

「全国豊かな海づくり大会」は、魚や貝などの水産資源の維持培養とそれらの生物がすむ海や湖沼･河川の環境保全に対する意識を高めるために､昭和 56 年に第１回大会が大分県で開催されて以来、毎年各地で開催されています。

海のない岐阜県でなぜ海づくり大会なのか

岐阜県には、海がありませんが、県土の８割を占める豊かな森があります。この森を水源地として８つの大きな川が流れ、日本海、太平洋へと注いでいます。
豊かな森が川を育み、その清流が豊かな海につながり、この尊い水の循環の中で生かされていることを全国に向けて発信するため、岐阜県で海づくり大会が開催されました。

大会概要

●大会名称：第３０回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～
●テ ー マ：清流が　つなぐ未来の　海づくり
●大会日程：平成 22 年 6 月 12 日（土）
　　歓迎レセプション（岐阜市）
　　平成 22 年 6 月 13 日（日）
　　式典行事（関市文化会館）
　　放流・歓迎行事(関市池尻の長良川河畔)
　　（両日）　ふれあい交流行事（岐阜市・関市）
　　サテライト行事(県内４０市町村)
●主　催：豊かな海づくり大会推進委員会
　　第 30 回全国豊かな海づくり大会岐阜県実行委員会
●後　援：農林水産省、環境省

ヤマリン
（大会キャラクター）

大会の特徴

１　全国初の河川開催
第 30 回を迎える海づくり大会の歴史の中で、初めて河川を舞台に開催する大会です。「豊かな海は、豊かな森と川が育んでいる」ことから、森・川・海のつながり、水と人とのつながりを考える機会となりました。

２　環境をテーマとした大会
都道府県大会で初めて環境省の後援を得た大会として、水産資源の保護・増殖や水産業の振興とともに、新たに「環境」もテーマとした大会とし「水を守る」「地球を守る」ことをアピールしました。

３　県民総参加の大会
森・川・海が一体となった自然環境の保全は、すべての人が自らのこととして考え、取り組まなければなりません。今大会では、県内全市町村で関連行事を開催し、過去最大の約 17 万人が参加しました。

４　子どもたちが主役の大会
豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくため､環境のために自分たちに何ができるかを考える環境学習「水の子ども会議」などの成果を踏まえ、子どもたちが主役となって、考え、行動する大会としました。

式典行事　6月13日（日）　関市文化会館

自然環境保全の大切さを、全国に向けて発信しました！

式典行事
関市文化会館

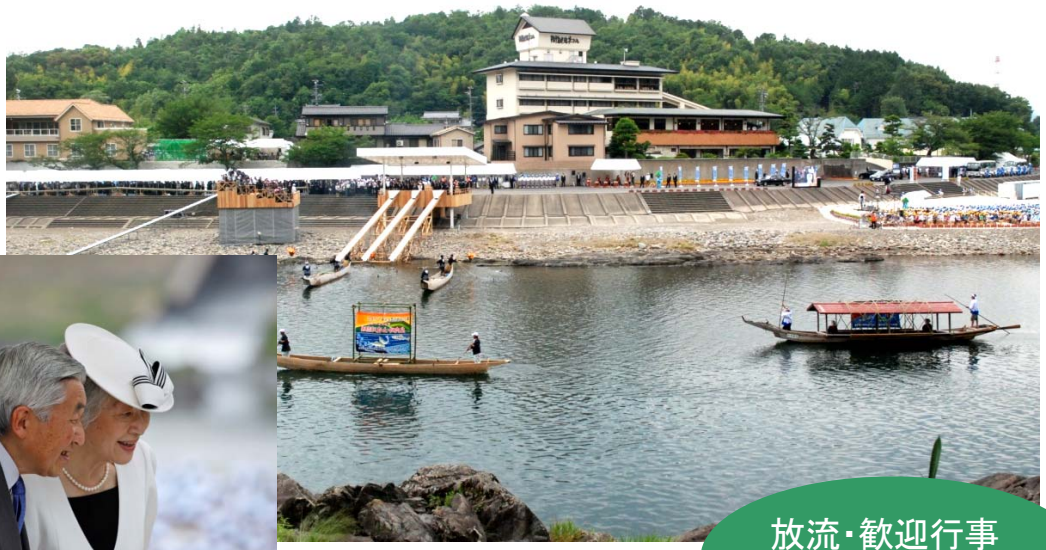
全国初の「河川大会」として、未来を担う子どもたちが主役となって、水の循環や水の恵みを見つめなおすとともに、水を守ること、さらには、地球を守ることを、語り、歌い、演じる行事を行いました。

ご臨席される天皇皇后両陛下

未来の案内人の小学生とヤマリン

放流･歓迎行事　6月13日（日）　関市池尻の長良川河畔

長良川河畔で
自然への誓いを行いました！



放流･歓迎行事
関市池尻の長良川河畔

９隻の舟による回遊旗の披露、参加者全員によるカスタネット合奏などのほか、豊かな海づくりの願いを込め、天皇・皇后両陛下とともに５００人の招待者がアユ、アジメドジョウ、カジカ、アマゴの放流を行いました。

天皇皇后両陛下の御放流

東濃桧のカスタネットをたたかれる天皇皇后両陛下

大会を振り返って

大会には、県内 42 すべての市町村において開催された、ふれあい交流行事、サテライト行事を合わせて、延べ 17 万人近くもの方々に参加いただき、まさに県民総参加の大会となりました。

第 30 回の記念すべき大会が「清流の国ぎふ」の地で、はじめて河川を舞台に開催され、新たに「水を守る」「地球を守る」という「環境」の視点を重視した大会として、森・川・海が一体となった自然環境保全の大切さを全国に向けてアピールできたことは、大変意義深いことです。

今大会の開催に当たっては、「清流が　つなぐ未来の　海づくり」を合言葉に、6 県 80 市町村の皆さんとのつながりを実感した回遊旗リレー、千人を超える子どもたちが参加して水や環境について学んだ水の子ども会議、百万人余りの皆さんに参加していただいた協賛行事などに取り組んできました。

その結果、県民の皆さんが「森・川・海のつながりの中で清流を守ることの大切さ」に気づき、自ら行動しようという大きな意識変化が起きていると感じました。こうした動きは、まさに清流を守り伝える県民運動の端諸となるものであり、絶やすことなく今後も継続、発展させながら広く定着させていきたいと思います。

今回の大会を一過性のイベントに終わらせることなく、2 年後に開催される「ぎふ清流国体」「岐阜清流大会」へのつながりの中で、県民参加の「清流の国ぎふづくり」を一層推進していきたいと考えています。